

行政視察報告書（会派：「新しい風」との合同視察）

提出日：令和 5 年 11 月 2 日

議 員 名	藤本秀範
日 時	令和 5 年 10 月 24 日（火）
相手先・場所	埼玉県新座市
内 容	●にいざビジネスサポート（視察調査事項の説明／質疑応答）
成果・所感等	
(1) 取り組み内容（聞き取り内容） 〔1〕 取り組み主旨／目的について ・市内事業主や創業を目指す方の相談窓口として開設（令和 4 年度 5 月～） ・自主財源確保対策の一環として小規模事業者の創出 ・収益につなげる目的を主とした専門家とのヒアリング機能を構築 〔2〕 具体的な取り組み内容 ・売上に関する収益改善と販路の拡大 ・起業計画に対する相談窓口（支援対策と事業継承など） 〔3〕 事業に対する資金相談窓口機能 ・政府系金融公庫との連携 ・創業セミナーの開催（日本政策金融公庫と共催）	
(2) 視察で感じたこと等 自治体における自主財源確保につながる取り組みに大きな視点を持つ埼玉県新座市を訪れた。「にいざビジネスサポート」という起業支援策の裏には、ベッドタウン的な住宅需要の高い地域での小規模事業者を含む創業を支援し、更なる市民法人税確保という好循環事業を目的とした取り組みである。最大の経営課題となる売上と販路の拡大は、事業者にとっても販促対策としては重要な位置づけである。自治体側で構築した内容として、まず多様化した事業相談には専門家の意見は欠かせないことがあげられる。専門家である中小企業診断士や創業資金にまつわる金融公庫と協働するための連携こそがこの事業の大きな目的である。運営期間は開設され間もない状況であるが、事業者が抱える経営課題など気軽に相談できる無料相談窓口が開設されたことで新設される起業も創出されている。創業を目指す挑戦者と一緒に考えるプロの専門家を抱えるビジネスサポートは産業振興課が担い、それぞれの相談内容によって割り振りされている。課題解決に向けた大きなポイントは、新座市が持つ各補助金手続きの導入であり補助金制度を活用した実績も成果として表れている。企業支援策に導かれた事例として、ベッドの高級マットレスを展開する企業の「エアーウエーブ」	

という会社は元々、釣り糸の製造会社だったようで、倒産寸前の時に返品で返ってきた大量の釣り糸を活用してベッドマットレス作りに事業転換された事例もある。以上のことから、例えば、同じ業界の方を募り、これまでの自社で生産してきた商品や企業ノウハウはオンリーワンであり、価値があるものであることから、これまでの商品の持っている価値を活かしつつ、ひと工夫の商品変化を行い、「これまでとは全く異なる業界への参入への可能性」等の話し合いの場を本自治体に設けていくことも必要に感じた。全体として産業連携という観点から、小規模事業者や個人事業を起業する支援窓口の運営体制を構築することが結果的に市民法人税へとつながり、あらたな市民サービスに取り組める事業として捉えることが出来た。

行政視察報告書（会派：「新しい風」との合同視察）

提出日：令和5年11月2日

議 員 名	藤本秀範
日 時	令和5年10月25日（水）
相手先・場所	国会議事堂/衆議院第一議員会館/参議院議員会館
内 容	陳情と研修について
成果・所感等	
(1) 取り組み内容（聞き取り内容） 〔1〕 衆議院/参議院議員会館 ・ 地元選出国會議員中心に陳情とご挨拶を実施（広島県府中市としての要望書を持参） 訪問先：衆議院議員：小沢一郎事務所/佐藤公治事務所/小島敏文事務所/小林史明事務所 参議院議員：宮沢洋一事務所/三上絵里事務所/越智俊之事務所/宮口治子事務所 ・ 研修事業：EV化に伴う産業構造の変化について（自動車部品主体） 講師：経済産業省	

(2) 視察で感じたこと等

・地元選出国會議員中心に広島県府中市としての要望書を持参した陳情とご挨拶に訪問した。秋の臨時国会中でもあり周辺と議員会館及び国会内はあわただしい様子であった。にもかかわらず、ご対応してくださった国會議員より今国会の課題や政局に対するそれぞれの思いを伺うことが出来た。大きな流れはコロナ以降、また海外紛争から起こる原油高や物価高の懸念された課題をどう克服するかなどをお考えである。政治権力が集中する場所を肌で感じることで地方議員としてのさらなる自覚が持てたことは大きな習得につながっていると感じた。経済産業省とのレクチャーは、まさに時代の流れのニーズを持つEV化に伴う自動車業界の動きを中心とした内容であった。今後、普及されるEV電気自動車HVハイブリット自動車の流れを踏まえた自動車部品の生産体制や業界構造の変化、またエネルギーを供給する時代の変遷、電気自動車に欠かせない液体電池から全固体電池への変化の流れに及ぶ情報を聞くことが出来た。各取り組みによる関連事業者への影響と供給体制の変化は急激な勢いで変わってくることを感じ取ることが出来た。

行政視察報告書（会派：「新しい風」との合同視察）

提出日：令和5年11月2日

議 員 名	藤本秀範
日 時	令和5年10月26日（木）
相手先・場所	文京区青少年プラザ b-lab〔東京都文京区教育センター内〕
内 容	青少年の自立性及び社会性を育む施設の取り組みについて
成果・所感等	
(3) 取り組み内容（聞き取り内容）	
〔1〕 青少年プラザ（b-lab）とは？	
・中学生と高校生を対象に自主的な活動の場と交流の場を提供する拠点	
〔2〕 利用対象者/施設利用について	
・主に区内在住・在学・在勤の中高生世代で利用者登録後入館カードを発行し、管理はPC及びバーコードリーダーを使用	
〔3〕 主な目的とコンセプト	
・館内の雰囲気はリビングのようなスペースを設けた中で勉強やバンド活動、ダンス等ができる場所や学習支援や文化等の交流イベントを実施している。「中学生/高校生」の秘密基地というコンセプトにより中高生が関わるイベント企画やb-lab運営に関わるステージなどを目的としている。	

(4) 視察で感じたこと等

・区内の公立私立に在学する中高生が放課後の居場所として活用出来る場所の提供は、監護責任者である保護者としても安心する施設として位置づけられることを感じた。なぜなら、中高生という成人になる前の大切な成長期で抱える精神的な育成を保護する役割も充分担う施設と感じたからである。学習だけに特化せず、中高生として興味を抱く、防音設備を完備した音楽スタジオやダンスルーム、交流が持てるスペースや個人が自由に活用できる場所も設けている。最も重要な点は無料で Wi-Fi 通信が可能な設備であること。中高生が成人に向かっていく過程のなかで最も大切なことは、興味ある様々なことに挑戦するステージがそこにあるということである。多様なことが経験できる秘密基地があればそこに集まってくるのは自然な流れである。この居場所で触れ合うスタッフや出会いから自分たちが抱える悩みごとが解消につないだり、新しい可能性を見出すことにつないだり、自分が主役になるステージが生み出されたりとチャレンジをあと押しする効果を感じ取ることが出来た。府中市を振り返ると、学校と公共交通の窓口となる JR 府中駅の近くにある天満屋内の「イコーレ府中」の整備事業に立案することも視野に入れてまいりたいと感じたところでもある。一方で利用者においては中高生徒のみが主体という考え方ではなく、老若男女を含む他地域からの来館者も増やしていくことが望ましい。結果として施設利用料を設けた維持施設として活かした持続性のある必要施設として捉えることが出来た。